



一般財団法人
安藤ハザマひとづくり財団

2023年度
専門工事業
PR助成金

CASE STUDY

Vol.07

地域の皆さんとの相互関係を築いて イメージアップ活動を展開!

株式会社日建総合建設

大分県大分市

株式会社日建総合建設の信条は「地域への貢献」と「地域からの信頼」を重視して、地域を発展させていくことです。そのベースには、建設業は地域のインフラを築き、守り、引き継いで生活を支える存在であり、地域の発展とともに成長していきたいという思いがあります。今回、本財団の助成プログラムを利用したイメージアップの取り組みにおいても、同社から地元の工業高校やそれまで縁の無かった障がい者就労支援施設に働きかけて、相互関係を築きながら活動を展開しています。

CORPORATE PROFILE

株式会社日建総合建設

設立	1980年9月
代表者	代表取締役社長 藤田英樹
資本金	5,000万円
社員数	44名
主な事業内容	土木工事業、舗装工事業
所在地	大分県大分市
ウェブサイト	https://www.nikken-all.com/



代表取締役社長
藤田 英樹氏

取締役総務部長
西山 晶氏

本財団から届いたリーフレットで他社の活動を知り、西山部長はこの助成金を利用して何か新しいことに挑戦したいと思いました。ちょうど取り掛かるマスコットキャラクター制作に、他の企業とは一味違う何かをプラスしたいと思案していたところ、藤田社長から「いずれ当社でも障がい者雇用に取り組みたい。それにつなげていくにはどうしたらよいか?」と投げかけがありました。

● マスコットキャラクターのデザイン制作に 地元高校生120人が挑戦

まず始めたのがマスコットキャラクターづくりです。建設会社もたれる堅苦しいイメージを払拭するために地元の県立鶴崎工業高校の皆さんの力を借りることにしました。当校デザイン科は2016年伊勢志摩サミットのロゴマークに選定されるなど多くの実績を誇っています。

提示したデザイン条件は「柔らかい」「明るい」「親しみやすい」の3点。1～3年生120名が学生の自由な発想で取り組んでくれました、先生と藤田社長が絞った12作品で社員全員投票を実施し、ダントツの人気で選ばれたのが“ふぁにこ”です。社用車にステッカーを貼ったところ、“ふぁにこ”を見たよ!と仕事関係者から写メが送られてくるほど反響がありました。

マスコットキャラクター“ふぁにこ”のコンセプト

モチーフは「太陽」。日建総合建設の「日」と「太陽のような明るい職場」を意味しています。名前の“ふぁにこ”には暮らしがもっと「楽しく=fun」なる環境づくり、それを通して人々に「笑顔=にこにこ」を運ぶという思いを込めたそうです。

● 障がい者アートを主役にした工事看板製作

イメージアップ活動の第二弾は、障がい者とのコラボレーションです。“ふぁにこ”を立体造形にできないか検討していた

これで思い出したのが、以前、24時間テレビで紹介されていた障がい者によるアート作品「キリンの親子のオブジェ」です。障がい者と共同でマスコットキャラクターの立体造形ができるのではとの考えが浮かび、さっそくそのオブジェを制作した地元の障がい者就労支援施設「ユーツー」を訪ねました。こうして地元の皆さんを巻き込むイメージアップ活動がスタートします。

でしたが、難しいので代わりに「動物アートを主役にした工事看板」という提案を受けました。

工事看板に障がい者アートを使用する取り組みは大分県建設業協会により県内で定着していますが、「もっとアート作品を工事看板に映えさせたい。」と常々思っていたのでこの提案に乗り進めることにしました。

しかも、制作会社に制作費を支払えば作家にデザイン費が渡る仕組みだと説明を聞き、その方々としっかりとした繋がりができると考え、こちらに依頼することに決めました。障がいのある方々が自由にのびのびと創作していただいたおかげで、独創的で親しみやすいものが出来上がり大満足です。



▲ “ふぁにこ”をデザインした高校生と藤田社長



▲ 保育園児へのハロウィーン菓子プレゼント

代表取締役社長 藤田 英樹氏

取締役総務部長 西山 晶氏

まさに「企業は人なり」

よく言われることですが「企業は人なり」です。働く人の行動や姿勢で企業の良し悪しがある程度決まってしまう。中でも私が重視しているのは「協調性」と「多様性」です。

自分の仕事が終わったらまだの人に何か手伝えることがないか声をかける。自分の利益よりも会社全体の利益を考えて行動できる。といった「協調性」と、自分とは違う強みをもった人の存在を尊重する「多様性」が会社を強くすると考えています。

今夏には県の制度を利用して社会保険労務士による男性育児休業制度の説明会を開き、制度の周知を図りました。性別や年齢ごとに3回開催し、それぞれの立場から理解が進むようにしました。

これからも協調性をもった方を採用し、大事に育てていくと同時に、女性や外国人、障がい者らが活躍するダイバーシティ経営を推し進めていくつもりです。

若い人のアイデアや職場の雑談がきっかけ

今回採択していただいた活動のほかにも、様々なことにチャレンジしています。一例をあげると、若手社員の発案により当社の玄関硝子と窓硝子に童話のイラストを描き、その中に会社のロゴマークを紛らせています。「たてものガラスの中にニッケンマークが3つかくれてるよ!」と、道行く人に遊んでもらう仕掛けをしたところ、子供たちに大人気。しばしば子供たちが立ち止まり「ニッケンマークを探せ」に夢中です。

また、昨年からは保育園児へのハロウィーン菓子プレゼントを始めました。職場の雑談がきっかけとなり、近くの保育園に話をしにいったところ、園児全員が当社に来てくれました。それ以来、親に連れられた子供が歩道から当社を指差す光景を見るようになりました。うれしいですね。

良いアイデアだと思えばすぐに実行するようにしています。どんどん新しいことに取り組むことが会社の活力になると信じているからです。

事務局コメント

株式会社日建総合建設のイメージアップの取り組みは業務上ではあまり関わりのない地元の高校生や障がい者、保育園児等にアプローチし、距離を縮めていきます。柔らかい思考で新しいことに挑戦していく姿勢は魅力的で、あの「北風と太陽」の太陽のごとく、一見回り道のように見える手法が着実に効果を上げていくのではないのでしょうか。地域と共に歩む建設会社にとって、地元と相互関係を築くことは企業を発展させていく上で忘れてはならないことだと学びました。